

## 審 議 会 会 議 録

会議名称	令和3年度 第2回 伊達市健康づくり推進協議会定例会議		
議 題	(1) 令和3年度保健事業実施状況（中間）及び令和4年度への課題 ①「第2次伊達すこやか親子21」 ②「第2次健康づくり伊達21」及び各種健（検）診事業 ③新型コロナワクチン接種		
開催日時	令和3年12月 書面開催		
場 所	書面開催		
出席者	委員15名（書面開催）		
	所属部課名	健康福祉部健康推進課	
公開 非公開 の別	<input type="checkbox"/> 公開	傍聴者の人数	
	<input type="checkbox"/> 非公開	非公開の理由	
<p><b>【会議の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症対策のため、書面開催とした。</li> <li>・資料郵送の際に意見書を同封し、事業内容等への意見を求めた。</li> </ul> <p><b>【提出意見等】</b></p> <p>(a) 色々な場面において、伊達赤十字病院の出前講座をご活用いただきたい。また、新型コロナウイルスワクチン接種については、全面的に協力させていただきたい。  <u>事務局</u>                  出前講座は、広報や保健事業を通じて市民周知を図りたい。</p> <p>(b) コロナ禍において、市民向けに『食改さんおすすめレシピ』を今年度は10種類作成し配布した。市民からは好評で、食への関心の高さに驚かされた。今後もレシピの発信を続け、「食」を通して市民の健康づくりの一翼を担っていききたい。  <u>事務局</u>                  地元食材を豊富に利用した『食改さんおすすめレシピ』は、市内公共施設等に据置くほか、保健事業を通じて配付し、幅広い年代の市民から好評を得ている。今後もお力添え願いたい。</p> <p>(c) コロナワクチン接種について、「原則8カ月が経過した18歳以上の方からの追加接種」となっているが、感染力の強いオミクロン株の感染が徐々に広がっている中で、市として、少しでも早く高齢者や基礎疾患患者、また、福祉施設において前倒しでワクチン接種をお願いしたい。</p>			

事務局

国の指針により、本市においても前倒しができるよう、各医療機関や施設等と調整を行っている。今後も国の指針を注視し、接種体制の構築に努めたい。

- (d) 母子手帳交付時アンケートにおいて、夫が「(たばこを) 現在も吸う」が 51 (54.8%) と高いことが気になった。

事務局

母子手帳交付時の聞き取りでは、「職場や外などで吸う」、「換気扇の下などで吸う」など、分煙をしている家庭が多い結果であった。乳児健診時の父親の喫煙率は減少がみられ、子の誕生をきっかけに禁煙する父親も一定数いると考えられる。今後も父親の禁煙について啓発に努めたい。

- (e) コロナ禍においても、母子保健活動を丁寧展開していると感じた。

虐待予防として「特定妊婦、ハイリスク妊婦」への支援も連携して対応されている。出産したと同時に要支援児童と母への支援になると考えるが、様々な事業を通して関わっていると思われ、保健部署としてどのように連携して支えているのか、5ページ「児童虐待の予防、発見」（主な取組）の実施結果で触れても良いのではないかと。

事務局

日頃から家庭訪問等を通して状況の把握や支援を行い、関係機関と密に情報共有を図っている。また、必要に応じて、関係機関につなぐといった調整役を担うこともあり、今後も虐待の早期発見・予防に努めたい。虐待予防の支援については次年度以降、関連ページ内でも触れていきたい。

- (f) 学童思春期において「自分を好きな子ども（中3）の割合」の実績がベースライン13%と比較して55.7%となっており、高く感じた。性教育等で取り組んでいるかと思うが、意識している取組はあるのか。

事務局

今回の実績は当市が性教育を実施した一部の中学生の実態となるが、この学校では中学2年生の時にも性教育を実施し、生命の尊重や自分を大切にすることを伝えてきた。繰り返し伝えることが自己肯定感を高める一因となっていると考えられる。

- (g) アルコールの危険性を知っている子ども（中3）、たばこの危険性を知っている子ども（中3）の割合について、実績は「未実施」となっているが、取り組まれていることがあるのか、また、今後どのように評価していくのか。他市町では、がん教育と合わせて実施していると聞く。母子手帳交付時アンケートでの保護者の喫煙率の高さや、改正健康増進法により受動喫煙防止に関する対策が強化されていることも鑑み、未成年者に対する喫煙防止対策について、既存の事業の中で取り組まれている、もしくは今後取り組む予定があれば実施結果で触れても良いのではないかと。

事務局

アルコールやたばこの危険性については、例年がん教育の中で伝えているが、今年度は市内中学校1校のみの実施（11月末現在）で、3年生の人数が少なかったことから未実施とした。また、評価は実施後のアンケートより行っている。今年度中ががん教育を行う予定もあるため、アルコールやたばこの危険性を伝え、評価したい。

(h) 地域での働きかけについて、マタニティマークの市民全体の認知度はどのくらいか。また、効果を実感している妊婦は、具体的にどのような効果を実感されたか。ヘルプマークなど他にもサインはあるが、必要な SOS が上手に発信受信できる街にしていきたい。

事務局

マタニティマークの市民全体の認知度調査は行っていないため把握していないが、乳児健診での母親の認知度は 95.4%、妊娠中の利用率は 66.7%となっている。マタニティマークの効果については、利用者から具体的な効果については回答を得ていないが、今後も妊婦にやさしい地域づくりを進めていきたい。

(i) 資料 2 で挙げられている「こころの健康」に関する評価指標の項目がない。「こころの健康」に関して、日頃から不安を抱えている子ども達に対し、市や教育機関がどのように目を配らせ、今回のような出来事があった時にどのように連携し、対応を話し合っているのか。こころの健康は突如崩れることもあるが、環境から徐々に触まれていくものも少なくない。既に注目されている「虐待」「自分を好きかどうか」「アルコール/タバコ」などとも関連すると思う。早い段階から不安を抱えている状況を見つける、相談先があることを伝えることは大切だと思っている。

事務局

自殺企図や自殺未遂を図った生徒がいた場合は、教育委員会や養護教諭と情報共有を行い、スクールカウンセラーや医療機関の受診を勧めるなどの対応を行っている。また、学校ではスクールカウンセラーや相談機関について定期的な周知が図られている。「すこやか親子 21」の思春期分野に「こころの健康」の取り組みに対する評価指標はないが、性教育の中では自己肯定感や生命の尊重、相談先について触れており、思春期の自殺予防やこころの健康づくりは重要な取り組みであると考えている。

(j) 子宮・乳がん検診において提供されたレシピとは、どういうものか。

「免疫力を高める食生活のポイント」はニーズに合った取り組みだと思う。実施してみて市民の反応はいかがか。コロナ禍において「免疫力を高める」ことに関心を持っている市民が増えている様であり、市民の反応も拾いながら続けていきたい。

事務局

子宮・乳がん検診受診者を対象に食の情報提供を行っており、今年度は食生活改善推進員が作成した栄養バランスの良い「食改さんおすすめレシピ」を小冊子にして配付した他、抗酸化や免疫力増強作用があるといわれる「ファイトケミカルスープ」のレシピを配付した。市民からは、免疫力向上に役立つ食品の効率良い摂取方法などについての質問を受けるなど、免疫力を高めることへの関心の高さが伺えた。

(k) 「たきテレ」を活用した運動番組放送は良い取り組みだと思う。市民の反応はいかがか。コロナ禍において、ケーブルテレビの活用はどんどん進めた方が良い。

特に、地域密着の運動番組は切望していたこともあり嬉しい報告であった。市民の反応と今後の展開について期待する取り組みである。また、血液検査結果別の運動方法とは、具体的にどのようなものか。エビデンスのあるものか。

### 事務局

「たきテレ」を活用した運動の紹介は、第1弾として、夏休みに親子向けの運動番組を放送し、番組を見た子供たちからは好評であった。今後は第2弾として強度別の運動紹介番組を放送する予定となっている。血液検査結果別の運動方法は、厚生労働省ホームページの掲載情報を参考に作成し、血圧や血糖などの改善策として、主に有酸素運動と無酸素運動をどのように組み合わせると効果的を紹介している。

- (1) 昨年、悲しいニュースが流れ、メディアは自殺予防の呼びかけを合わせて何度も流していた。市内の子どもや若者向けには何か話し合われていたか。あの事件と世間の動向を受けて市がどのように考え検討したのか、具体的な取り組みや教育委員会などとの連携があったのか。不安を抱える人の心は揺れる事件だったと思っている。

### 事務局

当課において自殺に関連した相談の増加はみられないが、自殺関連の報道が増えることと全国的に自殺者も増加する傾向にあることから、今後の動向を注視している。今後は普及啓発事業をより強化する必要があると考えており、自殺予防パネル展の開催にあたっては教育委員会や学校と協議し、効果的な普及啓発をすすめたい。

- (m) 肺年齢測定器（ハイ・チェッカー）による簡易検査が実施されていることに気付かなかった。希望者はどこでどのような手段で募っていたのか。

### 事務局

特定保健指導の対象者で喫煙している方や、健康相談で保健センターに来所された方で希望がある方に実施している。市広報などで周知を行っているが、日頃の生活習慣を見直す機会となるよう、周知方法を工夫していきたい。

- (n) 健康づくりサポーター事業の推進について、市の健康課題に沿った宅配講座のメニュー等をホームページに掲載するとあるが、あまり反映されていないように思う。各サポーターが市の健康課題と一緒に取り組んでいくというのは、今までの連携方法から一歩進んだ素晴らしいスタイルだと思う。各サポーターにどのように市の健康課題への取り組みを促しているのかを具体的に示していただき、市民にはホームページに市の健康課題について、根拠と共にわかりやすく掲載いただくとよい。

### 事務局

健康づくりサポーター事業は、今年度より市の健康課題解決に向けた取り組みを進めている。この取り組みの一環として、ホームページの掲載内容を見直したところであるが、出前講座や健康課題の掲載については、いただいた意見を参考にしながら、分かりやすい掲載内容に努めたい。

- (o) 健康づくりポイント事業の周知方法については、対象者に合わせていくつか手段を増やすなど、検討した方がよい。封書やダイレクトメールは後回しにしがちであり、回数も1回では少ないように思う。

また、加入状況には増加者数と増加率も掲載いただき、周知方法などと見比べたい。ポイント事業は市民の興味関心をそそる良い方法だと思うが、ポイントの貯めやすさに工夫が必要である。この事業が専門業者と検討して進めているのであれば、時代と対象者にあった方法への見直しを考えてみてはいかかがか。

#### 事務局

周知方法については、新型コロナウイルス感染症の影響により、ポイントカード事業のイベントなどが中止となったため、ダイレクトメール1回のみでの発行となった。今後、イベントなどの開催状況に応じ、健診や他事業と連携するなど工夫し、周知を図りたい。

全会員数については、令和3年3月末で19,344人、11月末で19,767人であることから、423人増加し、増加率は2.2%となっている。昨年度と比較するとやや減少がみられるため、今後も関係課と対象事業の見直しや周知方法の工夫を図りたい。

ポイントの加算方法については、ポイントの貯め方や使い方といった利便性の向上を目指し、スマートフォンを活用したポイント事業などについて業者と研究を進めている。

- (p) 地域活性化起業人制度の活用について、長和地区での運動プログラムにおける40～50歳代へのアプローチは、これまで必要と言われながらもなかなか成果があげられなかったところだったと思う。この層を選んだ理由や、現段階で考えられている手段について、また、具体的な日時や方法についても聞きたい。

#### 事務局

健康課題分析の結果、40～50歳代からメタボリックシンドロームの該当者が増え始めることから、働き世代を対象とすることとした。また、働き世代は子育て世代でもあるため、子供を巻き込むことで親世代の参加を促すと同時に、地域の介護予防グループなど、異世代や地区組織も巻き込むことで、地域コミュニティの活性化も狙う取り組みとしている。具体的な日程は、1月中旬から3月中旬までの計9回で、時間帯は平日19時～20時と土曜・日曜10時～11時を予定している。

- (q) 個別健診での保健指導対象者が希望しないケースに対し、増加が増える時期を待つ以外に何か方法を考えているか。メリットを伝えることは有効だと思うが、具体的にはどのような内容か。

ヘルスアップ講座の参加者の満足度は高く、経験者からも話を聞いている。メリットとしてもっと知られる工夫があればと感じる。また、機会を逃してしまった方に再度受けられる仕組みの検討があればと思う。加えて、継続的に運動を希望する参加者をつなぎとめるよう、綿密かつ継続的な連携強化が必要であると思う。

#### 事務局

個別健診での特定保健指導を希望しない方に対しては、その理由を聞き、対象者の状況に合わせて保健指導のメリットを伝えている。

ヘルスアップ講座は、伊達市の国民健康保険加入者で、市の特定健診を受けられた方を対象としている。満足度の高い内容であることを発信し、参加したくなるような周知の工夫をしていきたい。講座は年3回設定しており、機会を逃した場合も別日程で参加いただけることとしている。講座参加後の運動施設の継続利用については、関係機関と課題を共有し、連携強化に努めたい。

(r) がんは早期発見が大切だと感じている。市民には繰り返しそのことを伝えていくことが一番の対策ともいえる。健診のアピール強化以外の啓発は何か考えているか。メディアでよく行われている体験者の声を届けることも、可能であるならば強く心をゆさぶられ効果があるように思う。

がんの初期症状を見逃さないことも大切なことだが、一般的にいわれる初期症状は他の病気でも起こりやすいものであったり、説明不足で適切にとらえられていないものもあるように感じている。また、ネットなどの情報はひとまとめになっていたり、情報が多すぎてわかりづらいとも感じている。まずは重点課題としているがんから、自分でもできるチェックポイントを整理してもらえたら良いと感じている。そこから健診に誘導という流れなどはいかがか。

レシピの公開は、伊達らしくてとても良い方法である。これは、免疫力を上げてがんを予防したり、がんに負けないレシピのことか。それとも、がん治療を受けて食事がとりにくくなっている方のための工夫か。前者は今、コロナ対策としても注目されていると思う。野菜を多く取り入れる食事はがん対策には最適なものであり、食育センターですすめていたファイトケミカルも有効と言われていることから、伊達市はがん対策の土壌がある街だともいえる。アピール方法を工夫し、既にある資源がもっと活かすようにしていただけたらと感じている。

#### 事務局

大腸がん検診、子宮がん検診は効果的な受診勧奨資材を利用し、個別に受診勧奨しており、受診に結びついていると考える。その他の周知方法として今後の参考にさせていただきたい。がん検診は、症状が出る前に受診し早期に発見することを目的としており、症状が出る前に受診してもらえるような勧奨に重点を置き実施していきたい。レシピは免疫力の向上にもつながるよう、野菜を中心に地元食材を利用し、簡単な内容のものを掲載している。本市の豊かな食材を市民が日常的に活用し、健康の保持増進が図られるよう、関係機関や団体と引き続き連携を図り、周知していきたい。

(s) マタニティ教室の満足度が 100%というのは素晴らしいと思う。これからも楽しく充実した内容をお願いしたい。

妊婦の欠食割合が 28.4%あることは驚いた。色々な事情があると思うが、食事の大切さについて伝え、改善して欲しい。コロナ禍で中断している食育の教室を通し、小さい頃から食事の大切さを理解し、3食を親子でとるよう促し、定着させてほしい。

#### 事務局

マタニティ教室は今後も妊婦や家族のニーズに沿った教室となるよう取組みたい。妊娠中の欠食頻度や欠食割合は、その後の乳児健診時アンケートから、妊娠前と比較して低下する傾向がみられる。今後も、母子手帳交付時に食についての正しい情報提供を行う他、早期から食の重要性を伝えていきたい。乳児や幼児の栄養教室は、コロナ禍を踏まえて形を変え、試行実施している。児童・生徒の栄養教室は、栄養教諭や養護教諭などと情報共有しながら、実施についての検討を行っていきたい。

(t) 性教育の実施について、その在り方、内容について検討の余地があると思う。

#### 事務局

2月には関係者を交えた思春期懇話会を予定しており、性教育の実施内容について意見交換を行い、効果的な性教育の在り方について、引き続き検討していきたい。